

ホザキシモツケ

Spiraea salicifolia

バラ科



ホザキシモツケ

名前の由来

「ホザキ（穂咲）」は他のシモツケ類の丸い花序に比べると細長いから。シモツケはバラ科の落葉低木で、下野の国（栃木県）で最初に見つけられたためこう呼ばれる。
漢字名：穂咲下野

特定種

該当なし。

形態的特徴

樹高1～2m。葉は披針形で長さ6～10cm、幅1～3cm、鋭鋸歯縁、互生する。若い枝には稜がある。花は円錐花序に径約6mmの花を多数つける、花弁5、淡紅色、7～8月開花。果実は袋果で5個あり、長さ3.5mm、9月に成熟する。

類似種との見分け方：ホザキシモツケは、花の色が淡紅色で、葉が細長く、基部が次第に細くなることで区別ができる。



ホザキシモツケの花。小さな5花弁の花が多数集まっている



ホザキシモツケの実。5つの袋状の実がひとつかたまりを作る



ホザキシモツケの葉。細長い楕円状で、縁には鋭いギザギザがある



ホザキシモツケの樹形。冬には枯れ草と見間違える程頼りない感じ



ホザキシモツケの樹皮。若いうちは赤褐色、やがて灰褐色に



ホザキシモツケの冬芽。長さ2～3mm



ホザキシモツケの葉の付き方

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■■■■■								
結実期						■						

生育環境・分布

涼しい地方の日当たりのよい湿った原野、湿原の周辺部、遷移の少し進行した湿原に島状に群生する。

分布：国外分布は、アジア～ヨーロッパ。国内分布は、北海道、本州中部以北。北海道内分布は、全域か。十勝地方生育状況は、全域。平野部。



ホザキシモツケは、日当たりのよい湿原周辺などに生える。伐開されたあと植生回復途上の河川敷などにも見られる

繁殖生態・寿命

7～8月開花。果実は袋果で5個あり、長さ3.5mm、9月に成熟する。寿命は不明。

他生物との関わり

フタスジチョウ、コツバメの幼虫の食樹。
カイガラムシやアブラムシが寄生することがあるという。



フタスジチョウ。
幼虫時、ホザキシモツケを食樹とする
(撮影-平林照雄)

植栽関係

土質はあまり選ばないが、肥えた土を好み、停滞水のないことが大切。移植時期は早春発葉前が最も良く、寒地での秋植は時に枝がれを起こす。根元を乾かさないようにする

と良い。育苗については、春発葉前に、株分けするか前年生の枝を10～20cmに切り取って挿し木にする。

興味深い話

- 庭園・公園樹、花材などに用いられる。
- 地下茎（根茎）を横に走らせ、地上に茎を直立させる。
- 種子は2mmくらいと非常に小さく、まるで麻ひもからほつれて落ちるゴミのような感じ。風で簡単に飛んでいく。
- 地上部の見かけの割に根は深く、50cm以上入り込んでいる。
- 平均減少率が約30%、100年後の絶滅確率が約40%ということで、環境省レッドデータ（2000）の絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されていたが、平成19年（2007）のレッドリストからは対象外となった。



ホザキシモツケ

配慮事項

肥えた土を好み、停滞水のないことが大切。移植時期は早春発葉前が最も良い。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「新装版 樹木根系図説」苧住昇 誠文堂新光社 1987
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物～レッドデータブック 植物Ⅰ（維管束植物）」環境庁野性生物課 2000

緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11～p:13 1975

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）草花

（外来種）草花

哺乳類

（水辺）鳥類

（草原・樹林）鳥類
ワシ・タカ